

平成 27 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏推進協議会 議事録

日時：平成 27 年 12 月 24 日（木）15：00

会場：三重県伊勢庁舎 4 階 401 会議室

(進行役：中川情報戦略局長)

お待たせいたしました。

定刻になりましたので、ただいまから、伊勢志摩定住自立圏推進協議会を始めさせていただきます。

本日は、皆様にはご多用のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私は、本日司会を務めさせていただきます、伊勢市情報戦略局の中川でございます。議事に入るまでのあいだ、しばらく進行させていただきます。どうぞよろしく願い申し上げます。

それでは、本日、ご出席いただいております方々をご紹介します。

鳥羽市長 木田 久主一（きだ くすいち）様
志摩市長 大口 秀和（おおぐち ひでかず）様
玉城町副町長 小林 一雄（こばやし かずお）様
度会町長 中村 順一（なかむら じゅんいち）様
大紀町副町長 服部 吉人（はっとり よしと）様
南伊勢町長 小山 巧（こやま たくみ）様
明和町副町長 寺前 和彦（てらまえ かずひこ）様
そして、伊勢市長 鈴木 健一（すずき けんいち）でございます。

また、本日は、伊勢志摩定住自立圏の取組におきまして、ご尽力いただいております、三重県南勢志摩地域活性化局の 野村 浩（のむら ひろし）局長様、三重県松阪地域防災総合事務所の 長谷川耕一（はせがわ こういち）所長様、三重県地域連携部地域支援課の 野村 正宏（のむら まさひろ）課長補佐様にご臨席賜っております。ありがとうございます。

それでは、会長から、議事の進行をお願いいたします。

(会長：鈴木伊勢市長)

皆さん、こんにちは。

本日は第1回協議会の開催にあたりまして、年末の大変お忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。

当地域といたしましては、県知事、また大口市長に大変ご尽力いただいているサミットに関して、一步一步進んでいることに深く感謝を申し上げたいと思います。これからも様々な分野において皆様方のご支援、ご指導をお願いしたいと思っております。

それでは、さっそく議事に移らせていただきます。

一番目、(1) 定住自立圏形成協定の項目の追加 について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：辻企画調整課長)

事務局の伊勢市企画調整課長の辻でございます。それでは、定住自立圏の形成に関する協定書における取組内容等の追加 についてご説明申し上げます。資料、議案第1号をご覧ください。

背景といたしまして、現在、地方を中心に人口減少が進む中、少子化対策が求められておりますが、少子化の要因の一つに晩婚化・非婚化が挙げられます。この理由といたしましては「出会いがない」、「理想の相手に出会えていない」ことがアンケート調査等の結果として出ております。今後、地域の活性化のためには、結婚を望む人が結婚でき、安心して子育てできる社会づくりが必要です。

このような背景から、伊勢市では10月18日に「いせ出会い支援センター」を開所し、出会い・結婚を望む人の希望を叶えるため、出会い・結婚に関する情報提供、相談への対応、セミナーの開催等の取組を行っております。ちなみに11月末までの利用状況でございますが、全体で327件、うち男性が221件、女性が106件、直接お越しいただいた来所が196件、電話56件、メール8件、相談67件で、この圏域の大半の市町の住民の皆様にご利用いただいているところでございます。

このセンターを拠点としまして、圏域で連携して、出会い・結婚に関する情報提供等の取組を行うという内容を、協定に追加するのはどうであるか、という提案でございます。

続きまして、資料1-1は、定住自立圏の形成に関する協定書に、今回の案件内容を追加した場合のイメージでございます。網掛け部分が該当箇所でございます。

それから、資料1-2は、「いせ出会い支援センター」のリーフレットでございます。各市町で出会いの場を創出するイベント、結婚に関するセミナー等があれば、センター

に情報をお寄せいただき、会員や来訪者に広く情報提供を行うことを想定しております。各市町におかれましては、連携への参加をご検討いただければと思います。このリーフレットには開所の曜日、時間も書いてございますので、ご高覧いただければと存じます。

以上でございます。

(会長)

それではただ今の説明について、ご意見、ご質問等あれば、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

当センターの近くにいらっしゃる機会がありましたら、ぜひお立ち寄りいただければと思います。現在多くの方々にご利用いただいております。50代、60代の方々からも問い合わせがあるようで、伴侶をお探しになるケースも少なくないのではないかと感じております。結婚によって経済波及効果も一定程度あるということですので、ぜひとも皆様の支援をお願いしたいと思っております。

それでは、【議案第1号】定住自立圏の形成に関する協定書における取組内容の追加は記載のとおりとすることで、ご異議はございませんでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは、【議案第1号】については、そのように進めさせていただきます。

それでは、次の議事として、(2)伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの取組の現状について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、ご説明させていただきます。

資料2-1をご覧ください。こちらに、これまでの経過と今後の予定を記載させていただきます。

昨年も本日と同じ12月24日に協議会を開催いたしまして、イベント等の誘致・開催ということで、菓子博の開催等を含めた取組項目を追加することについてご協議いただきました。そして変更協定の締結を年度末、3月31日に完了いたしております。

また、今年度に入って、5月と12月、すでに2回の共生ビジョン懇談会を開催させていただいております。この間、6月には共生ビジョンの変更をいたしました。

今後の予定といたしまして、網掛けの部分でございますが、先ほどご了解いただきましたので、3月の議会で協定の変更案についてお認めいただきましたなら、年度内に変更協定の締結をお願いしたいと存じます。

昨年と今年は5月に共生ビジョン懇談会を開催させていただいておりましたが、来年度はサミットが開催されますので、サミットが終わってから6月頃に共生ビジョン懇談会、共生ビジョン変更という流れで進めさせていただきたいと考えております。

続きまして、**資料2-2**でございます。この組織には5つの部会がございます、それぞれ事務レベルで夏過ぎから検討を続けておりましたが、その状況についてこちらにお示しさせていただきました。

医療・福祉部会では、嘱託・臨時保育士確保のための人材バンク、復帰支援研修制度の創設について検討を行いました。県でよく似た制度がありますので、その補完も含めて引き続き検討していくということでございます。

教育部会では、昨年度に引き続き、公共施設を相互利用できる仕組みについて、検討していくということです。

産業・観光部会では、伊勢市の伊勢湾漁協と大紀町の三重外湾漁協との連携による、相互移動販売事業、これは県の南部地域活性化基金事業でございますが、徐々に取組を展開していくということです。またICTを活用した獣害対策の仕組みについて、検討を行っております。

公共交通・基盤整備部会では、公共交通の利用促進に係る情報発信、コミュニティバスの利用拡大について、検討を行っております。

総務・企画部会では、ポータルサイトやソーシャルネットワーキングサービス、SNSを活用した、圏域内のイベントのPRの連携強化について、検討を行っております。

なお、先ほども申し上げましたが、今年度、イベント等の誘致・開催として、菓子博の取組を新たに加えております。定住自立圏の取組とは直接関係が無いところですが、サミットの関係で仮称・伊勢志摩辞典の作成を進めていくということもございます。

また、本日、皆様方に資料としてご案内させていただいておりますが、菓子博の500日前を迎えたということで、菓子博の事務局長がこの会場にお越しいただいております。

(会長)

ただ今説明がありましたように、今日は菓子博の事務局から水口事務局長にお越しいただいております。皆様のご了解をいただけましたら、現況についてご報告いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

それでは、水口さんから現況について報告をお願いいたします。

(菓子博 水口事務局長)

それでは失礼をいたします。ご紹介いただきました、菓子博三重・実行委員会事務局の水口でございます。

今日は大変貴重なお時間を頂戴いたしまして、このような報告の機会をいただきましたことを心より厚く御礼申し上げます。

お手元に2枚のカラー刷の資料をご用意させていただきました。簡単にご説明させていただきます。

まず、500日前を12月8日に迎えさせていただきまして、それを機会に作りましたポスター、チラシのデザインでございます。これから広く宣伝していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。裏面には菓子博のイメージをご紹介させていただいております。

それからもう一つは、500日前記念イベントに関する内容の、菓子博通信第1号でございます。ご覧のように、吉田沙保里さんにもご登壇いただきました。菓子博のPR大使になっていただくということでご了承いただき、一緒に記念撮影させていただいております。いせわんこ、というキャラクターも決まり、着ぐるみも初登場させていただきました。これから可愛がっていただければありがたいと思っております。

大変簡単でございますけれども、この500日前イベントを節目に、内外に向けた広報宣伝に力を入れていきたいと思っておりますので、今後とも深くご指導、ご支援、ご助力を賜りたいと存じます。どうぞよろしくをお願いいたします。

以上でございます。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。

事務局からの説明は、以上でよろしかったでしょうか。

(事務局)

続きまして、**資料2-3**でございます。

今年度2回開催させていただいております、共生ビジョン懇談会の名簿でございます。伊勢市から10名、連携市町から1名ずつで7名、計17名でございます。今年度は、伊勢市の三重交通から参加いただいている委員の方、そして、三重外湾漁協南伊勢町から参加いただいている南伊勢町の委員の方に変更がありました。

それから、懇談会で委員の皆様からいただいた意見を、5つの視点で整理してご紹介させていただきます。

まず、人口について、見通しを立てて具体的な取組を考えていく必要がある、というものです。

雇用について、企業誘致の他に地域内で企業を育てていく発想が必要ではないか、というものです。

地域情報について、情報のネットワーク形成が進めば公共サービスを等しく受けることができるのではないかと、いうものです。

人材育成について、各市町が自前で人材育成していける体制を考えてほしい、地域を担う人材や子どもの育成について具体的なビジョンを持った取組がほしい、というものです。

また、その他として、定住自立圏の取組の評価方法について検討が必要ではないか、というご意見もいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

事務局からは以上です。

(会長)

それでは、ただ今の説明に関しまして、ご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

特にないということでございますので、次に、定住自立圏についての意見交換の場として、皆様からご意見、ご感想など、自由にご発言をお願いしたいと思います。

それでは、木田市長から、順番にお願いできますでしょうか。

(木田鳥羽市長)

出合いの支援ですけれども、非常に良いことだと思いますので賛成します。

先ほどの説明で、今は出合いが少ないから結婚しないという話がありましたが、昔は出合いが多かったかと言えばそうではなくて、例えば農家ではほとんど出合いがなかつ

たと思います。しかし、結婚しようという気持ちが強かったから結婚に結び付いた。出会いの場があることだけではなく、結婚に対する考え方も大切であると思います。

それから、定住自立圏の取組の評価については、やはり検証していかないともったいないと思います。

とばあばについて、東京のお台場で発表させていただきました。大変面白かったと思います。今後もいろいろな取組をやって情報発信していくことが、地域の活性化につながると考えます。

(大口志摩市長)

来年は伊勢志摩サミットということで、圏域の皆様には本当にお世話になっております。

今は環境整備に一生懸命取り組んでいますが、観光客は結構増えたと思います。面白いことに、賢島を訪れる人の10人に2人は志摩市内の人です。なぜかを分析してみましたところ、合併して行政は一つになりましたが、これまで市民は一つになっていませんでした。以前は賢島と関係がなかった人も、今、一番近い遊び場として賢島に来ていただいています。これが地域づくりのきっかけになると思っています。

出会いについて、一つ提案したいのは、日本人同士の出会いも良いですが、外国の人を呼んでくるのも良いと思います。ベトナムのダナンに行きましたところ、さくら学園という日本語の教室がありまして、日本語を覚えたら将来日本に就職したい、できれば日本に嫁ぎたい、という生徒がいました。良いか悪いかは別として、外国に目を向けるのも一つの方法かと思います。

(小林玉城町副町長)

玉城町ではこの2、3年、単独で出会いのイベントをやっておりまして、その結果、6、7組のカップルができたと聞いております。いせ出会い支援センターについては、イベントのときだけでなく、出会い支援を行う拠点を常設するというので、大変ありがたいと思います。

今年度地方創生の交付金の対象になっている取組として、保健分野の人材バンクに向けた一人親の移住促進の取組を行っています。保健分野に特化しておりますが、地域連携も要件に含んでおりますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

また、来年度以降になると思いますが、ICTのまちづくり事業で、定住自立圏で連携した取組を始めていきたいと思っておりますので、そのときはご協力をお願いしたいと思います。

(中村度会町長)

定住自立圏構想の制度に取り組むにあたっては、市町によって意識が違う部分もある

と思いますので、幹事会や部会でしっかりと協議、調整していただいて、成果を残すことが大切であると思います。

出会い支援の取組には賛成です。切れ目のない支援というと、もちろん理想ではありますが、度会町では底辺が小さく難しい面があります。また、地元の出会いイベントには顔を出しづらい面があるかもしれませんので、定住自立圏の制度を活用して伊勢市を中心に一緒に取り組んでいけるのはありがたいと思います。

昔は出会いの機会がなくても何とかなっていたように思います。今は情報過多で人が消極的になっているということがあるかもしれませんが、いせ出会い支援センターの業務の責任の範囲を明確にして、情報提供においてはしっかりと秘密を守りながら、愛のキューピッドとして人と人を結び付ける、ということが大切であると思います。

圏域で一致して取り組むことに協力は惜しみませんので、県の協力もいただきながら、成果を生んでいただければと思います。

(服部大紀町副町長)

地方創生として、人口減少を何とか止めようと、商工会を通じて、帰省する若者が多いお盆の時期などに出会いのイベントを開催しています。12月に釣りをテーマにした出会いイベントを開催することを企画したところ、女性が集まらず中止となりました。今後、いせ出会い支援センターも活用させていただきたいと思います。

人口ビジョンの関係で実施したアンケートでは、「結婚するつもりがない」という意見が4割近くありました。「出会いがない」という意見ももちろんありましたが、「結婚するつもりがない」という人が本当に多いと感じます。

講習やフォーラムの開催を通じて「結婚するつもりがない」人の意識改革をしていくことが必要であると思いますが、地元ではPRする機会がどうしても限られます。いせ出会い支援センターで伊勢志摩地域の皆さんにPRしてもらえると助かります。ぜひともご協力をお願いしたいと思います。

(小山南伊勢町長)

出会い支援センターについて、すでに南伊勢町からも何人かお世話になっているということですし、感謝を申し上げます。

地元のイベントに参加するという場合には、南伊勢町のレベルで考えると、地域が狭く参加しづらいようですが、伊勢市を中心に大きなレベルで考えると参加しやすいようです。町としても参加しやすい雰囲気を作れるようにしたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから、医療・福祉の部会で検討された件について、保育士だけでなく看護師も復帰しづらいと聞きますので、できれば看護師の人材バンク、復帰支援も検討してもらえるとありがたいと思います。

また、定住自立圏の取組はこれまで行政事務レベルのものが多かったように思いますが、出会い・結婚への支援は住民生活レベルの取組として、大きな期待をしています。これからも部会で住民生活レベルの取組を検討してほしいと思います。

(寺前明和町副町長)

出会い・結婚への支援に関しては、商工会で2年前くらいからイベントに取り組んでおりまして、町もいくらか支援させていただいております。男性も女性も参加していただいておりますが、運営の面でなかなか上手く行かない部分があります。定住自立圏で取り組んでいくということで、ぜひともノウハウを教えてください、地元で反映できればと考えていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、9月に齋宮跡に実物大の復元建物3棟が完成しました。また、10月にはその建物を含めた平安の杜というところの整備が一段落しました。他にも周辺整備等もしていかなければなりません、県営で整備していただき、県には大変お世話になりました。10月下旬から、管理は町でさせていただいておりますが、多い日で300人くらい、少ない日でも50人以上と、我々が思った以上の方々がお見えになっています。良い施設を作っていただきましたので、定住自立圏でもご活用いただき、周知も図っていきたいと考えていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(会長)

どうもありがとうございました。

出会い・結婚への支援の関係で、地域内外でこれからどういったことができるのか、担当者と検討していきたく思います。また皆様からご提案がありましたら、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

他に何か、ございませんでしょうか。

野村局長、いかがでしょうか。

(野村南勢志摩地域活性化局長)

日頃は南勢志摩地域、伊勢志摩定住自立圏の圏域の、私どもの取組にご支援いただきまして、誠にありがとうございます。

今後、伊勢志摩サミット、全国菓子大博覧会、インターハイ、国体と、この地域で大きなイベントが目白押しでございます。南勢志摩地域、伊勢志摩定住自立圏の圏域で、広域行政としての役割を果たしていきたいと思っております。

8月21日には、伊勢志摩地域の人口急減対策を考えるセミナーをさせていただいて、

志摩市と南伊勢町からは、国から地方創生で来られている人材の方々にも参加していただきました。それから 11 月 13 日には、災害時の要援護者対策を考えるセミナーで、玉城町と南伊勢町から職員さんに来ていただきました。市役所や町役場に経験豊かな職員さんが見えますので、日常的に交流の場を設けさせていただいて、今後につなげていきたいと思えます。

(会長)

ありがとうございました。一番の応援団ということで、よろしくお願ひしたいと思えます。

最後に、その他ということで事務局から何か説明はありますか。

(事務局)

今後の推進スケジュールについてご説明させていただきます。

議事の(1)でもご説明させていただきましたが、来年度から新たな取組を行うにあたっては、その取組が伊勢市と各市町で締結している定住自立圏形成協定の内容に該当しない場合、協定内容を変更する必要がございます。「出会い・結婚への支援」については、現在の協定の内容に該当するものがございませんので、これを新たな取組として行う市町を1月中旬までに確認させていただいて、具体的な協定変更の手続きに入らせていただきます。関係市町で協定変更の内容を調整いたしまして、案を作成し、各市町の議会での提案、議決を経た後、協定を変更する、というところまでを今年度内に行う、という流れを想定しております。その後につきましては、来年度の6月頃までに共生ビジョンを変更し、取組を進めていく、ということになります。

最後になりますが、本日の協議会の結果については、後日、伊勢市のホームページに掲載させていただく予定でございます。以上でございます。

(会長)

ただ今の事務局の説明について、ご質問等はよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の会議を閉会させていただきます。

本日は、年末の大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。